

須知高校生のみなさんへ

令和4年度 第2学期始業式 式辞

みなさん、おはようございます。夏休み中は、三者面談、補習や進学講習、学習合宿、農業クラブ行事や当番実習、部活動等で忙しかったと思いますが、家族の方と自分の将来について話し合い、自分自身を振り返る有意義な時間を過ごせたのではないかと思います。

さて、1学期の終業式では、森岡 ^{もりおか つよし} 毅さんの「自分の強みを見つける」方法について紹介しましたが、みなさんは自分の強みを見つけられたでしょうか。自分の強みがわかれば、自信にもつながり、何事にもチャレンジしようと前向きな行動へとつながります。

2学期の始業式では、その自信について書かれた永崎 ^{ながさき かずのり} 一則さんの言葉を紹介します。永崎さんは、話す力（話力）を研究され、日本で初めて「対話論（話力学）」講義をされた方です。永崎さんは「実力が先か自信が先か、^{せんさく}詮索の必要はない。ゆるぎない自信は努力の結果である。人間行動の成功、不成功の決定的な要因にはメンタルな力がある。火事場の馬鹿力みたいに人間は日頃、表面に出てこない力を秘めている。この潜在能力を^{けんざいか}顕在化できれば、すごい力を発揮することになる。そのためには自信が必要である。その自信は、単に思えば良いというものではない。そんな自信は過信につながり、もろくて崩れやすい。真の自信は鍛え抜かれたもの、成功体験の繰り返しによる確信から出てくる。ゆるぎない自信は、たゆまぬ努力の勳章なのである。」と述べられています。

みなさんも自らの夢を実現させるために、自分の強みを見つけ、その強みを自信に変えるために、日々の努力を怠らず、2学期の学校生活に取り組んで欲しいと思っています。自分自身が「こうしたい、こうなりたい」と懸命に努力している人には周りの人は期待し、必ず応援してくれます。夢を求め続ける人は、必ず何かとめぐり合える。どんなに厳しい世の中でも、必ず運命的なチャンスを手にすることができます。何かをなそうとする人は、心からそれを求める続けることが大切です。

結びに当たり、新型コロナウイルスの第7波がなかなか落ち着かない状況ですので、感染対策には十分留意しながら、充実した2学期になることを願い、2学期始業式の式辞とします。

令和4年8月29日

須知高校 校長 湯川 佳秀